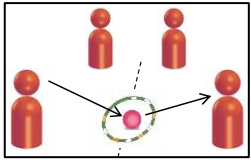
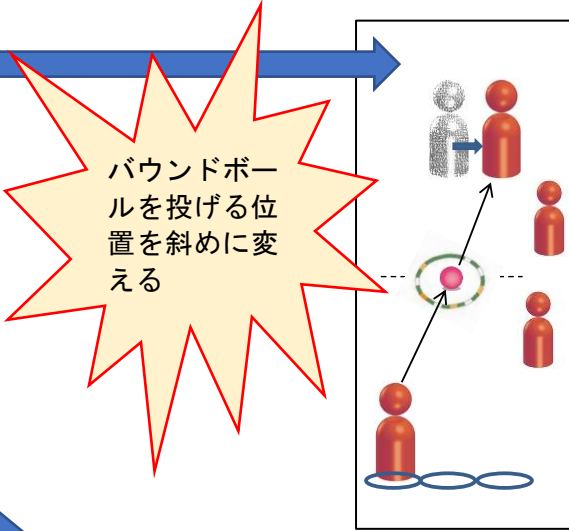


学年	教科等	単元名	日時
第2学年	体育科	いろいろなげつと（ボールゲーム）	令和元年7月3日（水）5校時
本時における「深い学び」	運動の行い方が分かった前時の学習を基に、運動のポイントに気付くことのできた学び		



【バウンドゲーム1の規則】

- ・ チーム内で行う。
- ・ 投げる側は、中央のフープのなかにボールをバウンドさせる。
- ・ 捕球する側は、バウンド数の指定に合わせて触れたら2点、捕球できたら3点とする。



バウンドボールを投げる位置を斜めに変える

子どもは、動きのポイントについての言葉を発してはいない・・・。
しかし、身体は対話している。

動きの習得段階が違えば、言葉かけも変わる

ボールが転がってくるコースに入ることについて、仲間のよい動きを動作や言葉で伝えることができるよう以下の言葉かけを行った。

身体の声 “転がってくるコースがつかめない”

言葉かけ わっかの右(左)にボールがポヨンとなったら右(左)にステップしよう。

身体の声 “どの位置で捕球してよいか分からない”

言葉かけ ふんわり落ちてくるところを下からキャッチしよう。

身体の声 “コースに簡単に入ることができる”

言葉かけ 違うボール(低反発ボール)でもキャッチできるかな。



身体の対話を生むために…

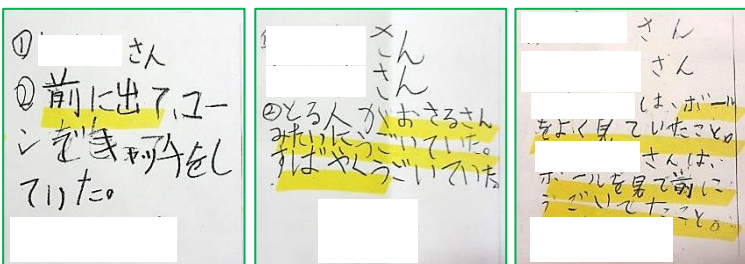
子どもの実態に即したスモールステップでの学び（バウンドゲーム1→2）が、対話を生む。バウンドボールを投げる側とそれを捕球しようとする側の双方の立場を経験させることで、投げる側は「なるほど！そうすればよいのか！」という気付きを得られ、それをその後、自分の身体で体現することができるようにする。

身体を見つめる学習指導

運動をしている仲間を側方から応援させる。そうすれば、仲間の身体の動きを観て、どうすればボールが転がってくるコースに入るができるのかを考えさせる。さらに、「あっ！右だ」等と勘を働かせる。

また、ふりかえりにおいて、見付けたポイントを付箋紙に書かせることで、身体で学んだことを意識化できるようにする。

～付箋紙でのふりかえり～



授業をふりかえって

- 身体の対話を生むためのしかけにより、子ども同士が互いの身体から動きについての気付きを得ていた。そこには、非言語での対話があったといつてよい。
- 動きをなぜ、共有できたのかを可視化できるとよい。動きを言語化させることで、言語の動作化につながる。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

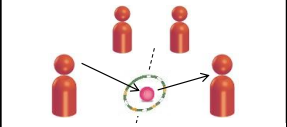
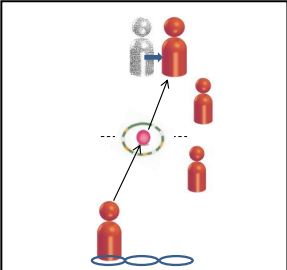
○ 指導計画（9時間）

- (1) オリエンテーションをする。_____ 1時間
- (2) いろいろなボール投げゲームをする。_____ 7時間
- ・ 強く投げる、移動して投げる【おせおせ！だんボール、だんボールタワー】・・・ 2
 - ・ 転がす、コースに移動する、捕球する【トンネルゲーム】・・・ 2
 - ・ バウンドボールを投げる、コースに移動する、捕球する【バウンドゲーム】・・・ 3（本時2／3）
- (3) ボヨンボヨントンネルドッチボールをする。_____ 1時間

○ 本時の目標

バウンドゲームでボールが転がってくるコースに入ることについて、仲間のよい動きを動作や言葉で伝えることができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 学習の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 場の準備 ○ 準備運動 <p>2 本時の運動課題をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 運動課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>バウンドするボールのところに行くには、どうしたらいいのかな？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 捕球のための用具の選択 ① カラーコーン ② 手 ※用具なし 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ボールを使った準備運動を行うことで、ボールに慣れさせる。また、場の準備をさせることで、前時のゲームを想起することができるようにする。 ○ 「バウンドするボールをキャッチするときに、どこにボールが来てほしい？」と問うことで、「動かなくても捕球できる胸あたりがよい。」という考えを引き出す。そこで「どうして？」と問うことで、バウンドして転がってくるコースに入ることに課題があることを学級全体で共有できるようにする。
<p>3 バウンドゲーム1をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ バウンド数の指定 ・ ワンバウンド <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <p>【バウンドゲーム1の規則】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チーム内で行う。 ・ 投げる側は、中央のフープのなかにボールをバウンドさせる。 ・ 捕球する側は、バウンド数の指定に合わせて触れたら2点、捕球できたら3点とする。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ バウンド数の指定をし、段階的に捕球する動きの難易度を上げることで、新たな課題に挑戦意欲をもって取り組みながら、転がってくるコースに入る動きを高めることができるようにする。 ○ 移動の際に上半身が上下にぶれるために、ボールを捉えられない子どもには、「おさるさんの動きをしてごらん。」と言葉かけをすることで、膝を曲げて前傾姿勢になって動くことができるようにする。
<p>4 バウンドゲーム2をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 規則の確認 ○ 作戦タイム ○ バウンド数の指定 ・ ワンバウンド ○ ボールの選択 ① スポンジボール ② 低反発ボール <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <p>【バウンドゲーム2の規則】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的には、「1」と同様 ・ 投げる位置を左右に広げ、両サイドからボールを投げる。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作戦タイムにおいて、自分の身体を動かして見つけたポイントを活用する姿が見られるはずである。この動きを称賛することで、バウンドゲーム1の学びを生かさそうとする意識を高められるようにする。 ○ ボールを2種類のなかから段階を踏んで選択させることで、跳ね具合のちがいを楽しみながら、転がってくるコースに入るポイントを確かめることができるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>低反発ボール…前方への動き</p> </div>
<p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間のよい動き ○ 転がってくるコースに入るためのポイント <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ バウンドする動きをよく観る。 ・ 少し低く構えて、素早く動く。 ・ おさるさんの動きをする。 <p style="text-align: right;">等</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 転がってくるコースに入るために仲間の身体から見つけたポイントを想起させることで、本時の学びを確かなものにできるようにする。また、仲間の身体が学びを深める大切な存在であることに気付くことができるようにする。

○ めざす子どもの姿

Aさんは、ボールがバウンドするところをよく観て、「おさるさん」の動きで、ボールが落ちてくるところにすばやく動いていたよ。

【思考・判断・表現】

